

[3] 中央区西部

- 23 **淀屋の屋敷跡**：淀屋の初代常庵は中之島の開発に尽力し、二代常庵は米市場を開設するなど父子2代で巨万の富を築いた。その屋敷はこのあたりにあった。
(中央区北浜四丁目、淀屋橋南詰西側)
- 24 **松瀬青々生誕地**：この地に生まれた青々は幼くして詩歌を学び、その俳句は正岡子規に賞賛され、東京に出て一時期「ホトトギス」の編集に携わった。帰阪後は朝日新聞で「朝日俳壇」の選句を担当、大阪俳壇の基礎を築いた。(中央区北浜四丁目6)
- 25 **手形交換所発祥の地**：わが国最初の手形交換所が明治12年(1879)この地に開設された。(同上)
- 26 **帝国座跡**：「オッペケペー節」で知られる川上音二郎が、新派の拠点として明治43年(1910)に建てた大阪最初の純洋式劇場。(中央区北浜四丁目4-7)
- 27 **大阪商法会議所跡**：明治11年(1878)に設立された、大阪商工会議所の前身。
(中央区高麗橋三丁目6)
- 28 **懐徳堂跡**：享保5年(1724)中井智庵らが創設した学問所で、武士から商家の雇い人まで身分の上下に関係なく学ぶことができ、山片蟠桃ら多くの町人学者を出した。(中央区今橋三丁目5)
- 29 **銅座の跡**：江戸時代の重要な輸出品で大阪がその中心であった銅の製造と流通を一元的に管理していた。(中央区今橋三丁目1-14、愛珠幼稚園前)
- 30 **適塾**：蘭学者 緒方洪庵が天保9年(1838)自宅に開いた塾で、大村益次郎・橋本左内・福沢諭吉など多彩な人物を輩出している。(中央区北浜三丁目3-8)
- 31 **大阪俵物会所跡**：江戸時代、海産物の干物類は俵詰めにして輸出していたことから俵物と呼ばれ、海外貿易の決済は一部俵物で行われた。そうした俵物の集荷を円滑にするため延保元年(1744)に会所が設置された。(中央区北浜二丁目2-15)
- 32 **大阪金相場会所跡**：江戸時代の通貨は、関西は銀、関東は金と異なっていたため、金・銀を相互に交換するためのレートが定められてはいたが、実際にはこの会所で立てられる相場が標準になっていた。(中央区北浜一丁目、大阪証券取引所玄関左)
- 33 **大阪会議開催の地**：明治8年(1875)、大久保利通は政府の体制を固めるため、反対の立場にあった木戸孝允や板垣退助を引き入れようと、伊藤博文や井上馨らとここで会議をもった。これが世に言う大阪会議である。(中央区北浜一丁目1-12)
- 34 **天五に平五 十兵衛横町**：江戸時代、経済の発展とともに今日の銀行的業務の必要性が生じ、両替商が生まれた。大阪では寛永5年(1628)に天王寺屋五兵衛が始めたのが最初といわれる。その天王寺屋五兵衛(天五)の向いに平野屋五兵衛(平五)が店を構えていたところから、五兵衛が二人で「十兵衛」横町と呼ばれた。(中央区今橋一丁目、開平小学校南西角)
- 35 **泊園書院跡**：江戸時代の大阪で、懐徳堂、適塾と並び称された私塾で、2万冊に余る蔵書は現在関西大学に泊園文庫として保存されている。(中央区淡路町一丁目5)



30 適塾

MEMO